

## 卒業論文の要旨

論文題目	生物多様性の保全に向けた行動へ導くポスターの制作 —市民一人ひとりの行動が繋げる命の基盤—
氏名	鈴木真衣
メジャー	環境学
<p>(要旨)</p> <p>近年、SDGs という言葉を様々なメディアから頻繁に耳にするようになり、注目を集めている。その背景には地球温暖化や廃棄物問題、森林破壊等の環境問題が社会で問題視されてきたことがある。しかし、数多くある環境問題の中で市民による認知度や関心度には差があり、対策を急ぐべき問題が隠れてしまっているという問題もある。本研究では、市民による関心度が低く、保全に向けた行動が不明確であると感じられている生物多様性を取り上げ、市民一人ひとりが行動に移し、継続できるようになる方法を提案することを目的とした。具体的には、生物多様性の保全に向けた行動を促すポスターを制作し、目的を達成できたのかをインタビューによって評価することとした。</p> <p>制作するポスターは、配布型で自宅や学校等で手元に置いて閲覧できる A2 サイズのポスターとした。対象者は 18 歳から 64 歳までの成人とし、市民一人ひとりが生物多様性に関して関心を持つことで、自ら持続的に行動できるようになり、行動できるという自信を持つことを目標とした。制作するにあたり、特に対象者の市民にとって分かりやすく、見やすいデザインであるか、生物多様性に関して知り、関心を持つことができるか、自らが情報を発信し、受け取りながら行動できるかという観点を重視した。市民が生物多様性に関する環境科学を難しいと感じないように、イラストを多めに使用する等、試行錯誤を重ね制作を進めた。</p> <p>完成したポスターを 5 名のインタビュー協力者に手渡し、半構造化インタビューを実施し、評価を行った。回答を分析した結果、協力者全員が生物多様性に関して知り、4 名が身近に感じたか回答した。また、3 名が誰かに伝えよう、行動しようと思えたと答え、1 名は既にしていると答えており、ポスターの目的はある程度達成できたと言える。一方で、行動を挑戦することと継続することには大きな差があるということも明らかになった。これを踏まえると、市民が普段何気なく取り組んでいる環境問題の対策に関して気づいてもらえるような工夫を入れ、環境問題の複合的な繋がりを知り、意識してもらうことが重要であると考えられる。</p>	
<p>(指導教員の推薦のコメント)</p> <p>科学的正確性を踏まえたリスクコミュニケーションの一形態として、市民への環境情報のコミュニケーションの重要性は今日ますます増している。しかし単に情報を提示するだけでは関心を引けず、とるべき具体的な行動を市民が理解できないことも多い。</p> <p>本研究ではポスターという媒体を利用しつつ、市民がリスク低減行動をとれるようになるための情報提供のあり方を探求した実践的研究である。市民の行動変容を実現するため調査と設計、制作を行い、制作物の効果は第三者へのインタビュー調査により評価している。優れた実践報告論文として鈴木真衣さんの研究を優秀卒業研究に推薦したい。</p>	